



- (1) 「昔蘇民将来之子孫也」
120×(25)×4 032
- (2) 「九ノ八十一」
172×21×3 032

二・七mのいびつな五角形の素掘りの井戸中から出土した。伴出遺物には、平安時代末～鎌倉時代初期の瓦器碗・土師皿・羽釜・軒丸瓦・曲物桶等があり、木簡は拳大の石と共に投棄されていた土器群中の下二〇cmから単独で出土した。

(2)の木簡は、径一・三m、深さ二・五mの円形素掘りの井戸中から出土した。伴出遺物には、南北朝時代の瓦質羽釜・すり鉢・常滑甕・青磁碗・軒平瓦・木椀・カメの甲羅・コウベモグラの骨等があり、木簡は人頭大の石と共に投棄されていた土器群中の下四〇cmから単独で出土した。

8 木簡の积文・内容

大阪・観音寺遺跡



(大阪東南部)

- 1 所在地 大阪府松原市西大塚・立部
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)四月～一九八六年三月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会・勤大阪文化財センター
- 4 調査担当者 大野 薫・中村淳磯・田中和弘・合田幸美・高橋 雅子
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 観音寺遺跡は、東除川と西除川に挟まれた瓜破台地と呼ばれる

洪積段丘の南部に位置している。遺跡の南端部は竹之内街道に接し、街道を挟んで南側には丹上遺跡がある。近畿自動車道と歌山線建設にともない発掘調査を実施した。

主な遺構として、奈良時代から中世にかけての建物

